

第 30 回 山の街まちづくり協議会 次第

令和 8 年 9 月 19 日 14 時～

於：甲緑地域交流センター

司会 原田

1. 会長あいさつ(5 分)
2. 羽田野事務局長逝去
3. 駅前整備計画についての住民意見収集
別紙
4. 構想アンケートについて（辻）

松岡会長

総会後の追加回収 67 通（WEB 除く）

5. 今後の進め方
6. その他
 - 次回予定

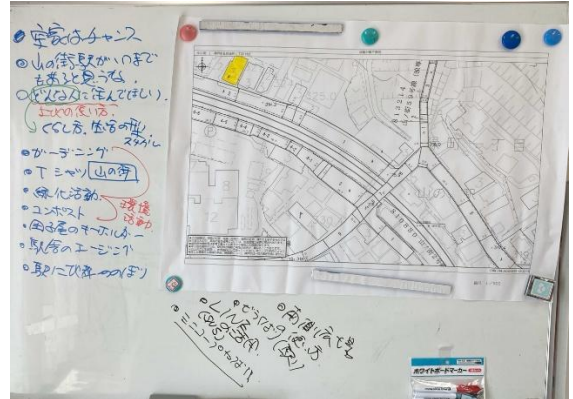
山の街駅前・まちづくり意見交換報告

1. 実施概要

日時：2026 年 8 月 30 日（日）10 時～12 時

場所：甲緑地域交流センター 会議室

参加：10 人＋コンサルタント



2. 意見交換内容の整理

(1) 将来像と魅力づくり

- 30 年語を見据えた暮らし方を考えよう
- レトロな既存駅舎の雰囲気保持
- 各戸の緑化推進と歴史要素の確認・尊重

(2) 駅前の整備・土地利用

- 地域側要望の取りまとめと地権者意向の尊重
- クランク道路の解消と送迎用スペースの確保
- 神戸市との協議体制の確立

(3) 合意形成と参加の拡大

- アンケートの回収率向上努力継続
- 若い世代への SNS 発信促進
- 地域ニュースの発信

(4) 直近の活動アイデア

- ニュースに LINE の案内掲載検討
- 山の街ロゴ T シャツの普及
- ミニコープの現状確認と存続活動
- 意見交換会参加者の増加努力（自治会等のネットワーク）

4. 意見交換の内容

(1) 駅前整備・土地取得の現状

- 駅前の地権者側には、権利関係を整理し、条件が整えば早期に土地を動かしたい意向があるとの共有があった。地域側が購入面積・条件等を具体化できなければ、交渉が進みにくいとの認識。
- コンサルタントから、神戸市は土地を先行取得するのではなく、事業計画、設計図、予算を順に整える必要があるとの説明があった。地域の要望を具体化し、市とのやり取りを重ねて計画を詰めるため、時間を要する。
- これまでの駅前道路案は、クランク解消を意図したものだが、地域の思いが十分に反映されていないとの意見が出た。道路構造令などの基準を満たす必要があり、技術的に無難な案と地域の希望とのすり合わせが課題。
- 朝夕の送迎車などによる駅前の滞留が、クランク部の混雑につながっているとの指摘があった。広い用地を確保して車両動線や滞留空間を設ける案、踏切を渡らずに帰れる動線案、ロータリー的な使い方などが提案されたが、結論は出していない。
- 駅南側の広場・バス停側を駅前の主な表側にする可能性も話題となった。一方、既存の駅前商店等がある側を地域の核として維持したいとの意見があり、駅前構造の議論は時期尚早として継続検討となった。
- 過去には、駅を橋上化し、周辺にスーパーマーケット、マンション、駐車場等を配置する構想があったが、バブル崩壊で消滅したとの説明があった。

(2) 合意形成と地域参加

- まちづくりは、住民が主体となって継続的に地域環境を改善する活動であり、行政へ地域の多くの住民の意思を示す必要があるとの説明があった。
- 過去のアンケート回収率は 30%未満だった。市が目安として「8 割の回収・8 割の同意」、すなわち住民の 64%程度の同意を求めているとの説明があり、現状では十分に届いていないとの認識。
- 反対意見や異なる意見を排除せず、理由や背景を聞き取りながら表現・計画を調整する必要があるとされた。
- 今回の参加者は主に二丁目・三丁目およびゆりが丘周辺であり、山の街や他自治会への周知・参加拡大が課題となった。
- 若い世代は回覧板だけでは予定を確保しにくいとため、開催情報は早めに発信する必要があるとの意見が出た。祭りには若い親子の参加も見られたため、地域行事を周知・対話の機会に活用する案が出た。
- 次回の住民向け集まりは、9月の第3日曜日午前中を予定している。役員会は第3土曜日14時との発言があり、「19日」とも言及されたが、日程・公開範囲は整理中。

(3) 将来像と地域の魅力づくり

- 人口減少、空き家増加、駅や商業機能の将来への懸念を踏まえ、現状の利便性要望だけでなく、30年後を見据えた地域像を考える必要があるとの意見が出た。

- 「どのような人に住んでほしいか」よりも、「どのような暮らし方ができる地域にしたいか」という問いで考える案が示された。職人的な暮らし、緑のある暮らし、週末利用・セカンドハウスの利用などは例示にとどまり、方針は未決定。
- 他地域の事例として、古い建物や町並みを生かし、若い世代やものづくりに関わる人が集まるようになった地域が紹介された。ただし、山の街には山の街固有の特性に合う生活スタイルを検討すべきとの認識。
- 駅舎については、現代的で華やかな改修よりも、レトロさや既存の雰囲気を残す方向を望む意見があった。一方、駅舎については方針が未定な状態であるが、具体的なデザインや改修方法は広く意見を集める必要がある。
- 焼きもち地藏や駅周辺の歴史的要素を地域の発信に生かす案が出たが、地藏堂・本尊・看板等の経緯について参加者間で記憶や認識が一致しなかった。活用の前に事実確認が必要。

(4) 住民主体で進めることの重要性

- 掲示されている駅名表示板の「山の街」の文字を用いた T シャツやパーカーを作り、地域の認知・一体感づくりや駅前での周知に活用する案が出た。価格は「1,500 円程度」とのことであるが、販売やデザインの詳細は未決定。
- 駅名表示の利用について、権利関係や鉄道事業者への確認が必要になる可能性が指摘された。
- 戸建て住宅の多さを生かし、各家庭から見える緑や花を増やすガーデニング、果樹、シンボルとなる植物の導入などが提案された。レモン、すだち、ゆず、オリーブ等が例として挙げたが、採用は未決定。
- コンポストの利用、生ごみの循環、緑化講座の開催等も案として出た。緑化・コンポストには助成制度がある可能性が示されたが、制度の確認は未了。
- ベンチ設置については、利用者ニーズはあるものの、設置場所の確保、私有地所有者の理解、安全性・管理面が障壁となる。希望者が自ら候補地の交渉等にも関わる必要があるとの意見があった。

(5) 情報発信と生活利便性の懸念

- 現在のホームページは閲覧者が能動的にアクセスする必要があるため、LINE や SNS を使った一方向の情報発信を検討することとなった。
- LINE 公式アカウント等を使う場合、登録者数・配信数に応じて費用が発生する可能性がある。無料枠や料金体系、運用担当、個人アカウントではなく公式アカウントを使うかは未決定。
- ミニコープについて、神戸市内のミニマーケットが1〜2年程度でなくなるとの情報が共有された。一方で、閉店・廃止の時期や当該店舗の状況は正式確認されておらず、噂だけの周知は避けるべきとの意見で一致した。
- ミニコープでは3月から6か月間の売上を見ているとの情報も出た。地域での購入促進や周知を行う場合は、まず店舗側の正式な説明・現状確認が必要。